DX推進の取り組み

株式会社サンシステム

1. 経営ビジョンおよびビジネスモデルの方向性

【DX推進の背景（社会環境の変化）】

建築業界の中でも当社が携わる領域は属人性が高く、個々の裁量への依存度も高い、個人商店の集合体のような業態が多く見られました。近年は業界全般で属人化の解消と標準化を進める動きが強まり、社会の働き方に対する価値観の変化に適応する形で組織的な業務推進への転換が求められています。このため、業務の標準化・データの安全な管理・情報共有への取り組みが不可欠となっています。

【経営理念・DX推進における経営ビジョン】

経営理念「人の可能性が集まって、笑顔を作る会社」のもと、私たちはいつでも人を真ん中に考え、人の持つ可能性の実現に努め、そこから生まれる笑顔の輪で地域・社会を元気にします。DXにおいては、性別・年齢・居住地など様々な違いのある人たちの共有と共感を実現するため、時間・距離・領域を横断できるデジタルツールを有効な手段と位置づけ、スタッフのマインドセットを起点として、デジタル活用が日常に自然に紛れ込んだ状態を目指します。

【DX推進ビジョン・方針】

- デジタルを活用し、業務の共有と標準化を推進することで、再現性の高い組織へと変革する。
- ツール・システムの活用により、業務の習熟度に応じてすべてのスタッフが活躍できる環境を整備する。
- 量と速度を緩めることなく全社的にDXを推進する。

【経営ビジョン実現に向けたビジネスモデルの方向性】

人中心という価値観を基軸に、一定の属人性は残しつつ、ツールやシステムを利用して共有・標準化・管理体制の整備を進めます。習熟度に応じた配置により、様々なレイヤーでスタッフが活躍できる状態のもとで、プランニング・現場管理・製造管理を行います。

2. DX戦略

【DX推進における具体的な方策】

DX戦略タイトル：

「共有と標準化で、人が活きるものづくりへ ― データを資源とするDX」

戦略（1）既存DX（業務効率化・社内オペレーション改善）

チームによる共有型業務を指向するにあたり、クラウドサーバー・オフィスソフト・メールサーバー等の散在している機能を統合します。サービス間のデータ移行の過程を取り除き、シームレス化することで社内の接続を強化し、業務改善を補強します。

戦略（2）データ活用による自社変革

特化型アプリを導入し、①物件に纏わる情報（図面・積算・仕様・施工記録等）を保存・管理②検索・抽出能力を強化して参照を容易にし経営資源として活用することで、③業務の再現性向上・時短・均一化・メンテナンス性の向上、及び習熟度に応じてレイヤー分けされたスタッフの活躍を実現します。

戦略（3）新規DX（サプライチェーン連携）

将来的にサプライチェーンを含めたDXを目指し、選抜したパートナー5～10社程度とデータ共有・エビデンス管理・コスト管理を段階的に展開します。セキュリティについては、社内設備に加え社員教育・外注先への啓蒙を並行して進めます。これにより顧客・当社・パートナー社の3者間で情報共有と標準化が進み、顧客サービスの価値を向上させます。

3. DX戦略推進に必要な体制・組織および人材の育成・確保

＜推進体制＞

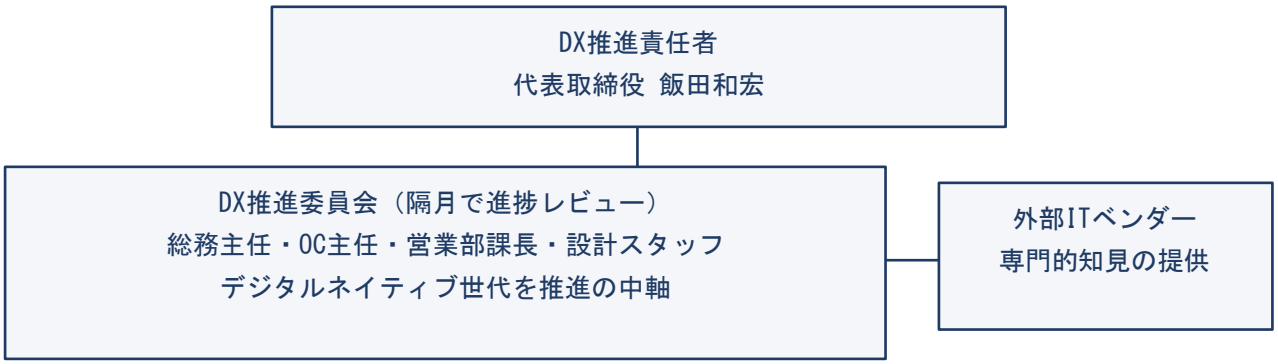
● DX推進の責任者を代表取締役 飯田和宏とし、経営直轄でDX施策を統括する。

● 推進メンバーとして、総務主任・OC主任・営業部課長・設計スタッフを配置し、部門横断で現場実装を推進する。

● 最適な環境の実現のため、デジタルネイティブ世代をDX推進担当の中軸とし、柔軟に意見を取り入れて機動的に推進する

● 外部ITベンダーと連携し、専門的知見を取り入れる。

● DX推進の会議体（名称）を DX推進委員会 とし、隔月で進捗レビューを行う。



＜デジタル人材の育成・確保＞

● 人材育成：専門家派遣によるセミナー受講を通じ、DX推進に必要なスキル・知識を習得する。デジタルネイティブ世代を推進の中軸として、実践の中で今後を任せられる人材を育成する。人材確保：社内からの人選に加え、外部ITベンダーの知見を活用して体制を確保する。

4. ITシステム環境の整備に向けた方策

「ITシステム環境整備」

＜クラウド基盤の整備＞戦略（1）

Office365およびCopilotの性能を最大限に活かすため、クラウドサーバー・メールサーバーをMicrosoftプラットフォームへ移行し、安全なデータ管理と全社的な情報活用の基盤を整えます。またTeamsを活用し、拠点・部門を越えた情報共有とコミュニケーションを高度化します。

＜現場DX基盤の整備＞戦略（2）

ANDPADを導入し、現場・チーム間の情報共有と施工記録等のエビデンス管理、手順整理により作業の標準化を実現します

＜情報共有環境の整備＞戦略（3）

セキュリティ対策も同時進行しつつ、ANDPADのライセンスを選抜したパートナーに付与し、顧客とも間接的に接続する。情報のみならず業務フローを共有することで、業務フロー全体での標準化と情報の資源化とする

5. 戦略の達成状況に係る指標（KPI）

【KPI（主要目標）】

＜定性指標：DX推進計画（いつまでに何をやるか）＞

● STEP1（1年以内）：管理職・スタッフの業務フロー刷新。共有型業務推進を一部実行して成果を観測、ツール導入・活用を開始。若年層スタッフをDX推進担当に任命し、ITベンダー連携を開始。

● STEP2（3年以内）：STEP1の全体標準化。1年を待たず共有型業務推進・ツール利用を全社で標準化。

● STEP3（5年以内）：サプライチェーンを含めたDX。パートナー5～10社とデータ共有・エビデンス管理・コスト管理を段階的に展開。ANDPADライセンス供与、セキュリティ啓蒙は1年目から実施。

＜定量指標（前年比）＞

● 時間外勤務：2025年度実績 -15%とし、人を中心としている社の理念の実現に近づけます。

● 計画進捗度毎年＋20%を目標とし、DX推進委員会に於いて隔月で評価表を用いて評価する。（作業手順の標準化率・検索工数・記録資料保存状況等）

6. DX戦略の前提となる課題把握

2026年10月～10月まで

「DX推進指標」を用いて課題把握（自己分析）を実施した。

7. 情報セキュリティに関する取組

2026年10月～10月

SECURITY ACTION制度に基づき自己宣言（二つ星）を行った。

8. 代表メッセージ

人の力で笑顔を創出する企業

私たちは「人の可能性が集まって、笑顔を作る会社」を目指しています。そのために「向上心」「感謝」「安心」を大切にして業務に取り組んでいます。より多くの「人の可能性」を集めるためには、様々な違いのある人たちの接続と、時間・距離・領域を横断する共有が必要です。向上心と感謝を大切に理念の実現に努めていく中で、関わる人に安心が生み出されることを目指し、目的の再認識と方法の再構築を進めていきます。デジタルツールを用いるだけでなく、業務設計をデジタル的に刷新し、人の力でより多くの笑顔が作り出されることを目指していきます。

株式会社サンシステム 代表取締役 飯田 和宏

2026年10月20日　取締役会の承認を得て決定したものです。

2026年10月30日　当社Webサイトにて公表

株式会社サンシステム

新潟県長岡市新産東町１０

代表取締役　飯田和宏